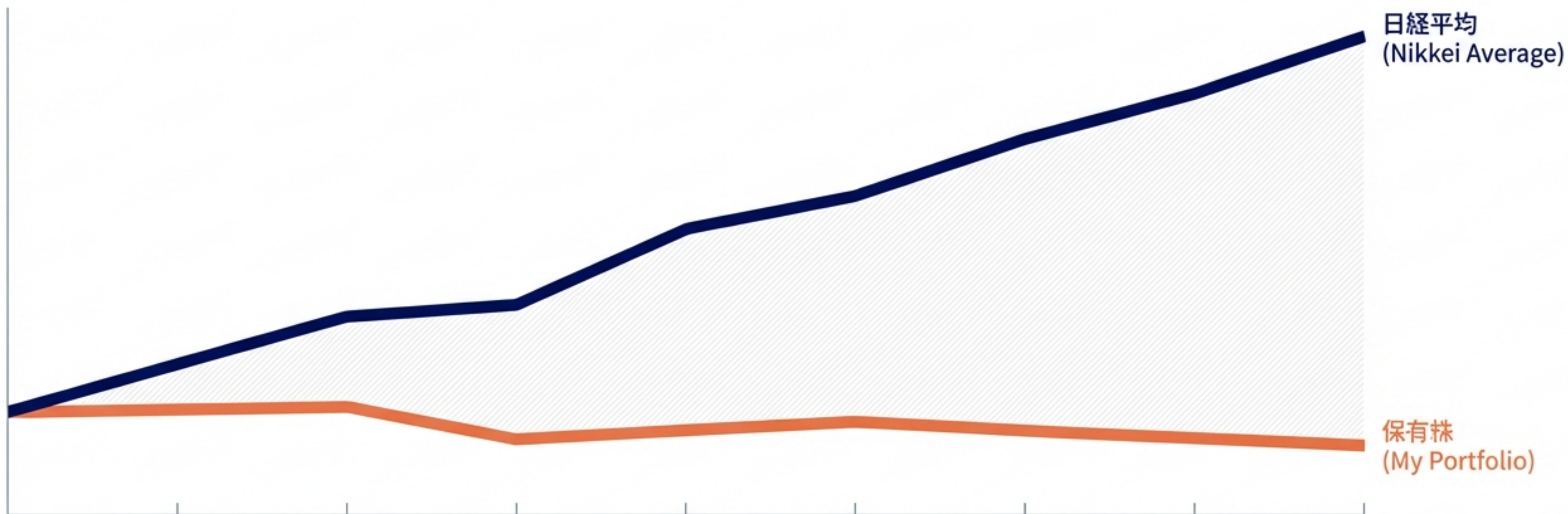


日経平均株価との「正しい」向き合い方

個人投資家が知っておくべき、市場の非対称性と攻略法



ニュースで毎日流れる「あの数字」。 あなたにとって価値はあるか？

日々、ニュース番組で必ずアナウンスされる
「日経平均株価」と「為替」の値。

時間にしてほんのわずかですが、毎日報道されると
いうことは、それだけ価値がある情報なのでしょうか？

多くの個人投資家がこの数字に翻弄されています。
ここで一度、立ち止まって問いかけます。

**「その数字は、あなたの財布（ポートフォリオ）に
本当に直結していますか？」**



個人投資家を苦しめる「市場の非対称性」

① 日経平均が上昇 = 保有株が上昇



成り立たない場合が多い

② 日経平均が下落 = 保有株が下落



成り立つことが多い

皮肉な現実: 相場が良いときは恩恵を受けられないのに、相場が悪いときだけしっかり巻き込まれる。
この「非対称性」こそが、個人投資家が感じるストレスの正体です。

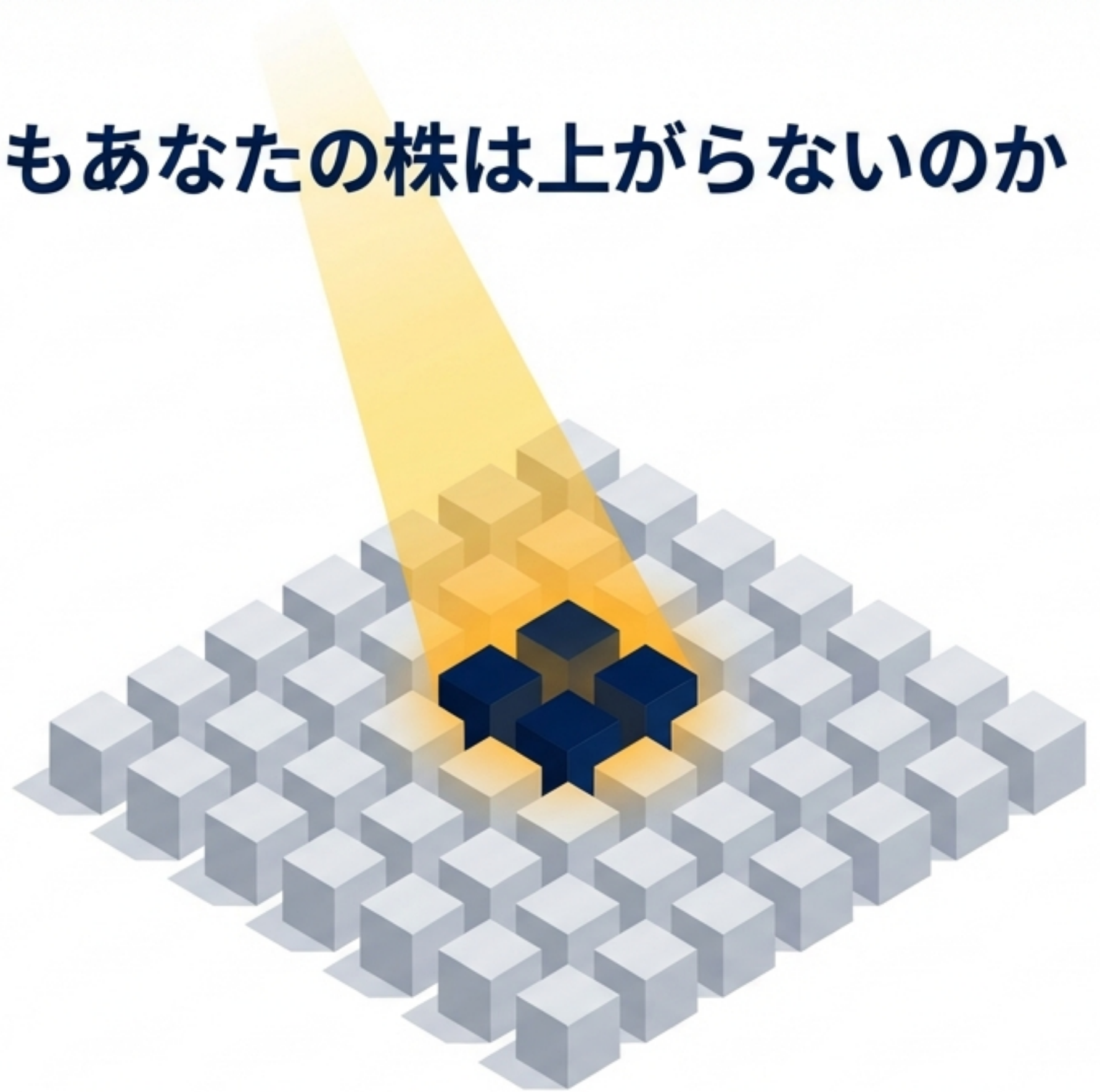
なぜ、日経平均が上がってもあなたの株は上がらないのか

資金の偏り

保有株が上昇するのは、その「同業種」や「銘柄自体」が注目されているときだけです。

日経平均の上昇は、あくまで特定のセクターや大型株に資金が集中している結果に過ぎません。

注目されていない銘柄に、恩恵は回ってきません。



なぜ、日経平均が下がるとあなたの株も下がるのか

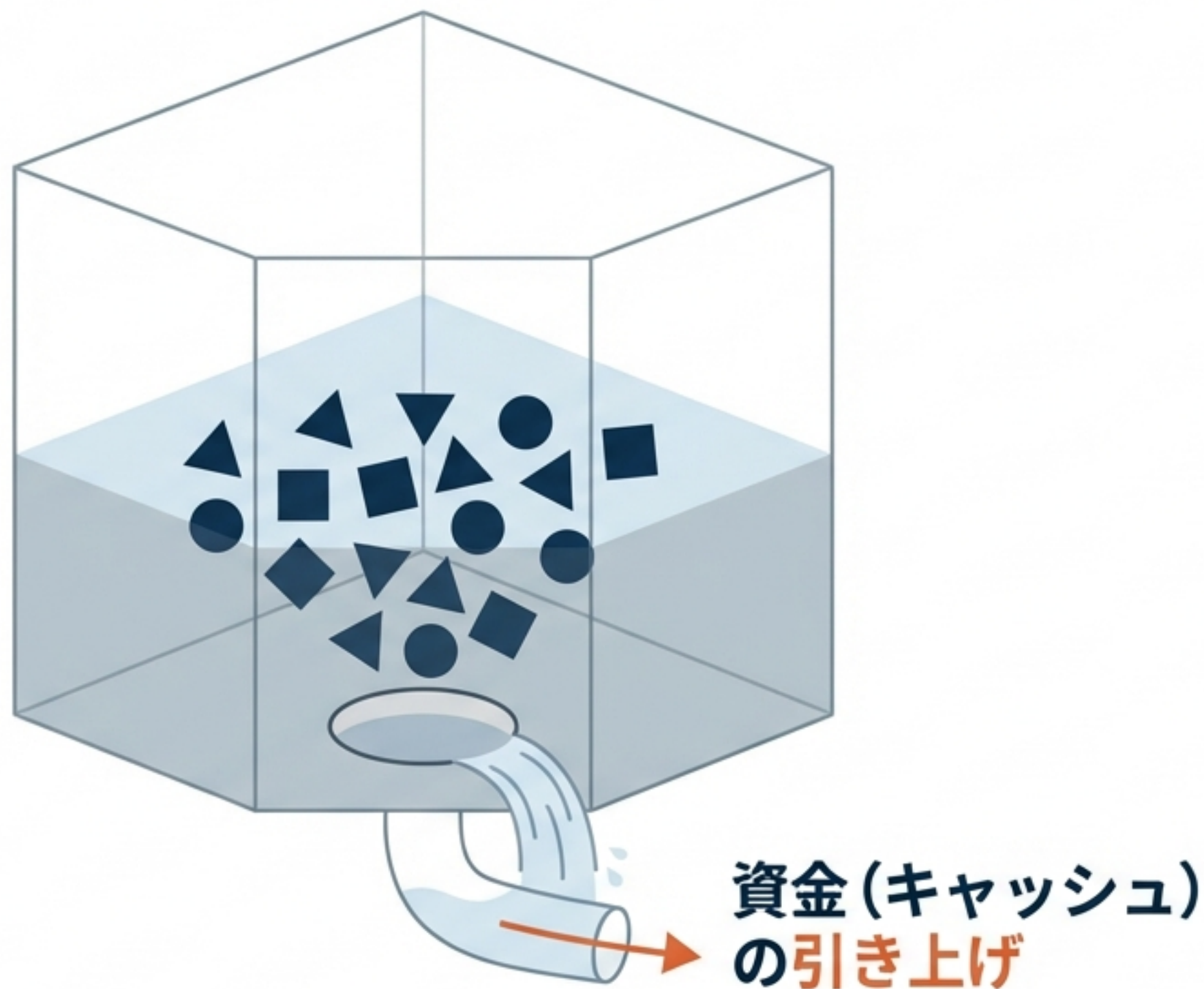
逃げる資金

下落時は、業種や業績に関係なく売られます。

日経平均の下落は、投資家が市場から「投資資金そのものを減らしている（現金化している）」証拠だからです。

結論

上昇は「選別的」だが、下落は「全体的」である。



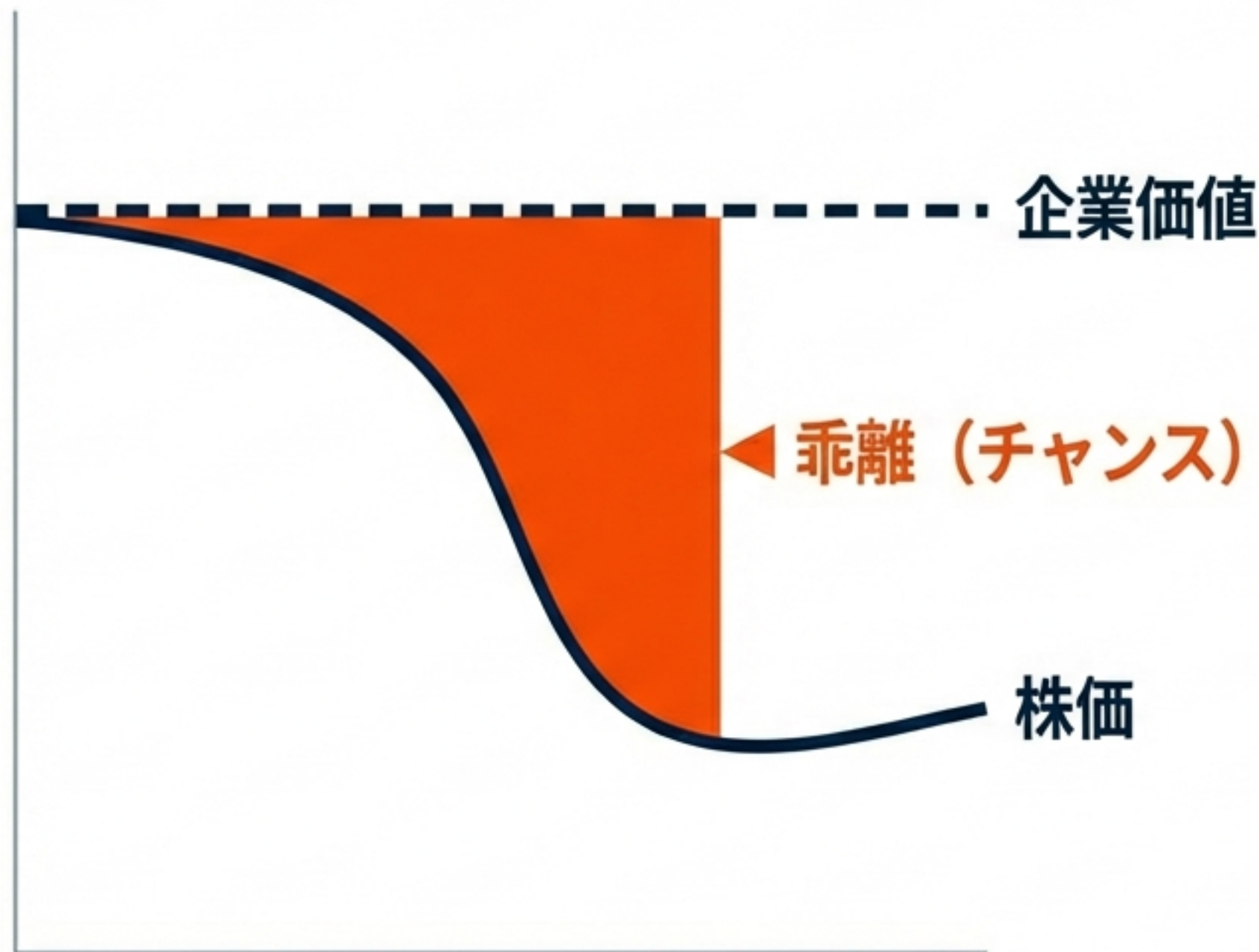
「理由なき下落」は最大のチャンスである

最もやっかいなのは、下落する要素がないのに、相場環境（日経平均）のせいで連れ安した銘柄です。しかし、これは好機でもあります。

逆転の発想

企業のファンダメンタルズが悪化したわけではないため、相場が落ち着けば値を戻す可能性が高い。

「下落し過ぎの銘柄」にこそ、投資の妙味があります。



警告：「下落し過ぎ」 だからといって、即座に買うな



落ちるナイフを掴むな (Don't catch a falling knife)

株式投資は単純ではありません。「下落し過ぎ」とは分かってても、
「どこまで下落し続けるか」は誰にも分かりません。

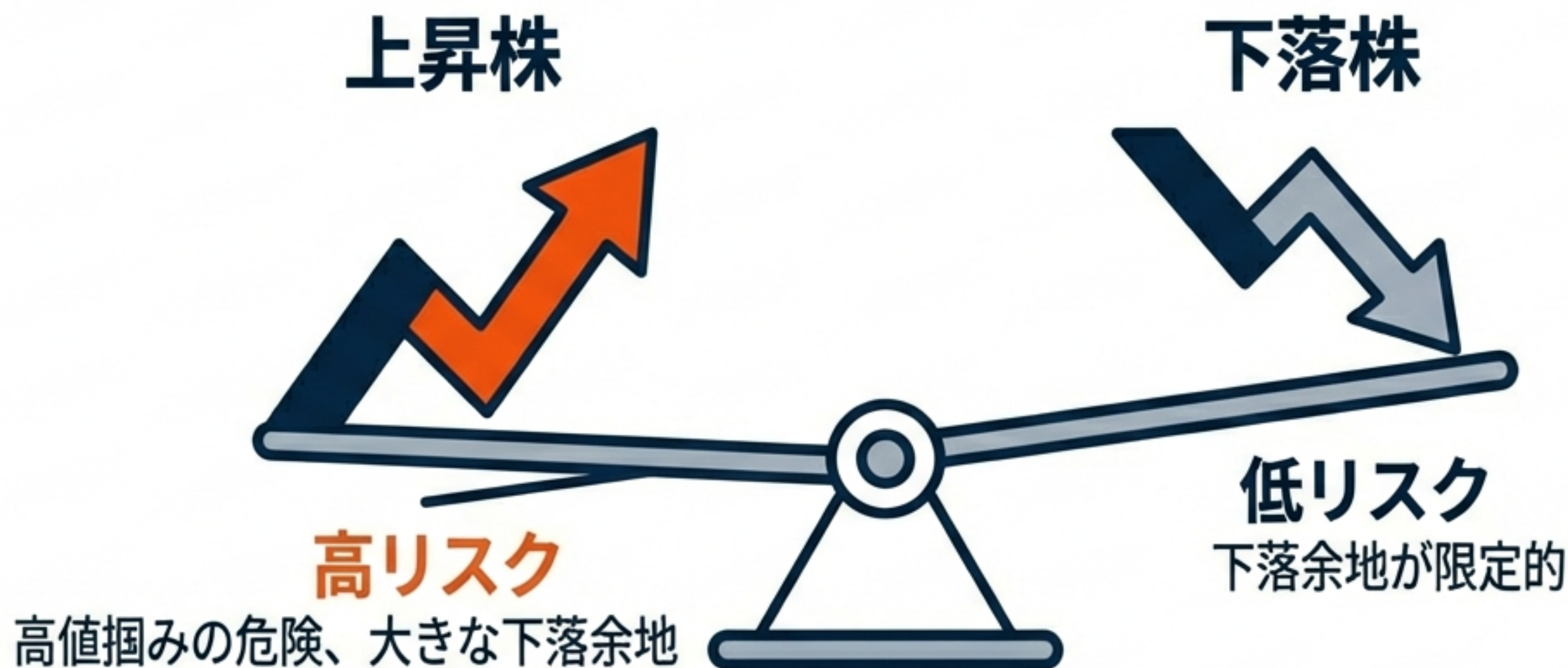
リスク

下手に手を出せば、さらなる下落（二番底、三番底）にお付き合いすることになります。

鉄則

下落中の銘柄を見つけても、即座に取引してはいけません。

リスクのパラドックス：上昇株 vs 下落株



結論：感情に逆らい、下落している銘柄に注目するほうが、長期的には安全性が高い。

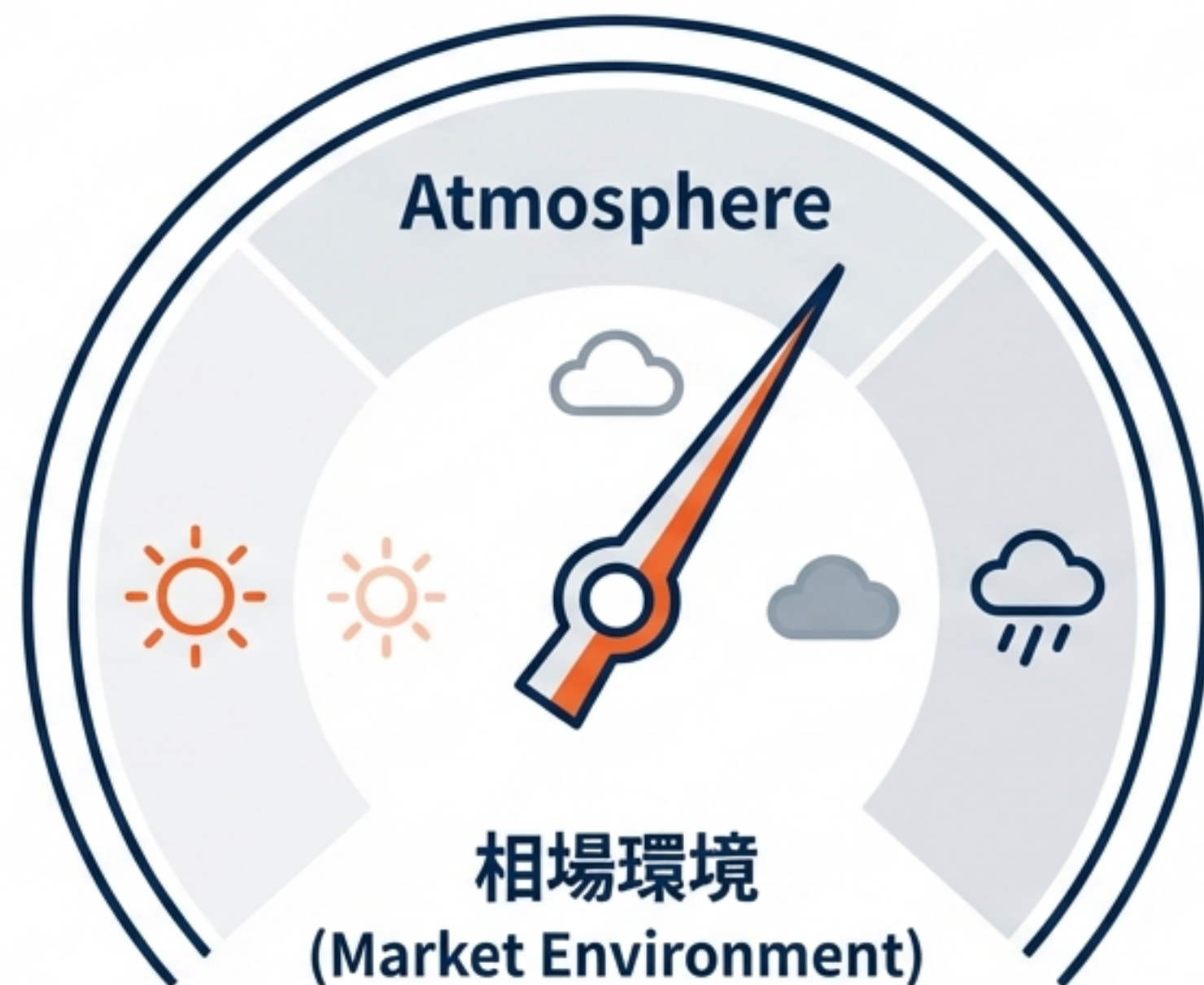
日経平均株価は「相場の雰囲気」として読む

日経平均は、あなたの銘柄の価格を決めるものではありませんが、「無視できない指標」です。

役割

上場銘柄全体の傾向や、相場の雰囲気（**Atmosphere**）を掴むためのツール。

保有株の動きだけでなく、マクロな「潮目」を読むために常に注視する必要があります。



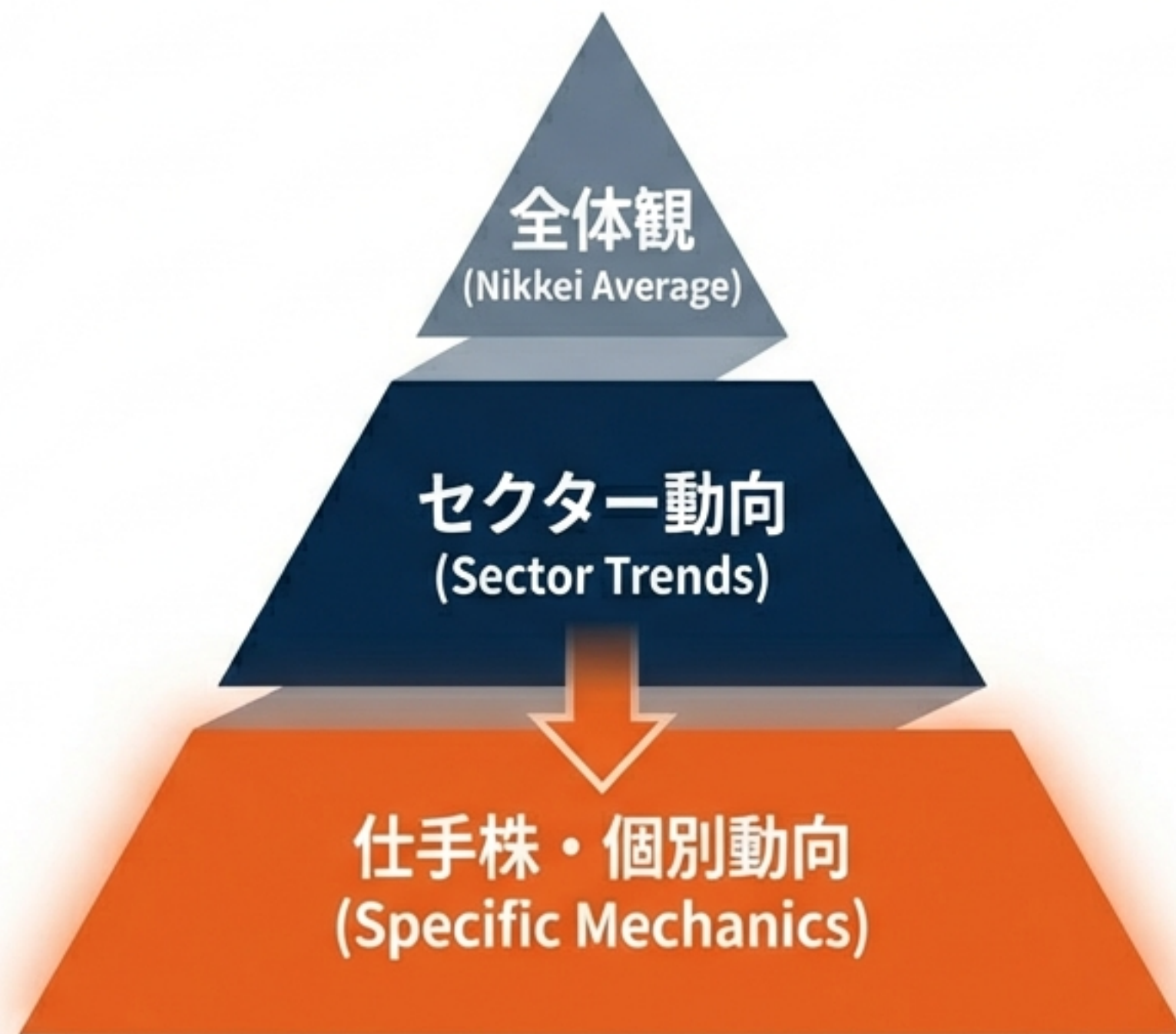
平均値を超えて、**仕手株（実利）** を掴む

日経平均という「全体」を理解した上で、次に必要なのは「個別の動き」を見極める力です。

仕手株.コム提供価値

- 大きく動いた根拠の解説
- 仕手筋（投資ファンド）の企みと資金動向
- 変わりつつある市場の傾向

ニュース番組では語られない、裏側の論理を毎日更新しています。



運ではなく、スキルで利益を出し続けるために

仕手株投資で確実に利益を出し続けるためには、知るべきことがまだたくさんあります。
今この瞬間の巡り合わせをきっかけに、投資家としてのレベルアップを図ってください。

本質的な「株価動向」と「理論」で、あなたの投資をサポートします。
本質的な「株価動向」と「理論」で、あなたの投資をサポートします。



仕手株.コム